

パイナップル春実における果実病害の発生

高江洲和子・宮里 勉・比嘉正和・*小那覇安優 (沖縄県農業試験場名護支場・*沖縄県農業試験場)

Kazuko TAKAESU, Tsutomu MIYAZATO, Masakazu HIGA, Anyu ONAHA : Occurrence of Fruits Disease of Pineapple Spring Crope

ホルモン処理による春実は、収穫期労力の平準化を図る上から、沖縄県のパイナップル栽培において重要である。春実の最大の問題点は果実病害の多発で、これらの病害は果実内部で発生し、外部からの識別は困難である。これら果実病害の発生は花芽誘導の時期によって差があるように思われる。そこで、パイナップル春実における果実病害の発生状況を把握し、病害発生が最も少なくなる花芽誘導時期について検討したので報告する。

1. 試験方法

1982年から'85年まで、沖縄本島北部地域(東村, 名護市, 本部町)のパイナップル栽培圃場で、花芽誘導時期4期(8月上旬, 中旬, 下旬, 9月上旬)と冠芽の有無, ビニール被覆の有無を組合せて16処理を行った。試験規模は1区20株の3区制とし、収穫した果実の各病害の発病の有無および缶詰用にスライスした場合の固形利用率を調査した。

2. 結果および考察

パイナップルの春実に果心黒変病, 褐斑病, 黒目病, 花樟病の4病害の発生が認められた。果心黒変病は冠芽着生果実での発病はほとんど認められず, 除冠芽の8月

上旬処理の果実で多く発生し, 8月中旬, 下旬, 9月上旬と花芽誘導時期が遅れるほど発病率は低くなった。褐斑病は冠芽着生, 除冠芽のいずれも8月上旬処理の果実で発病率が高く, 8月下旬, 9月上旬処理の果実ではほとんど発生しなかった。黒目病は地域によって発生が異なり, 東村, 名護市では処理方法に関係なく多発し, 本部町では8月上旬に多く, 花芽誘導時期が遅れるほど減少する傾向を示した。花樟病は夏実の病害であるが, 春実でもわずかに発生が認められ, 花芽誘導時期が遅れるほど発病率は高くなった。

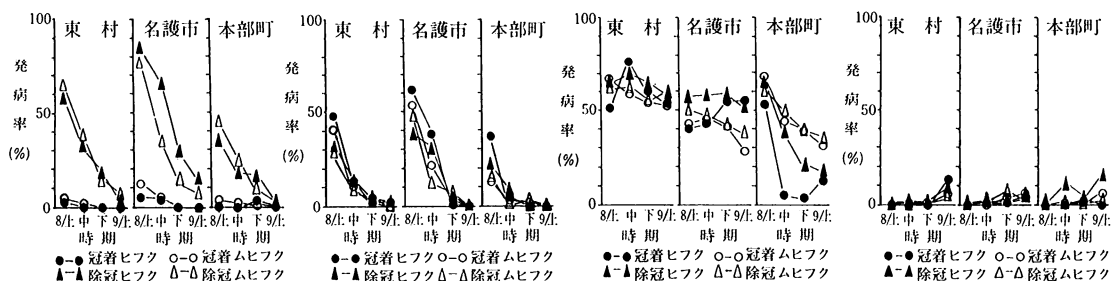
固形利用率はどの地域も花芽誘導時期による有意性が認められ, 東村の9月上旬処理を除き, 全体的に8月上旬処理が最も低く, 花芽誘導時期が遅れるほど高くなった。冠芽の折除およびビニール被覆による固形利用率の差は東村, 名護市では認められなかったが, 本部町では冠芽着生ビニール被覆区で高くなった。

以上のことから, 果実病害の発生が少なく, 固形利用率の高くなる花芽誘導時期は8月中旬以降であることが示され, 9月上旬処理の果実には花樟病による固形利用率の減少が認められた。

第1表 固形利用率

(単位:%)

処理方法	東 村		名 護 市				本 部 町						
	冠芽着生		除冠芽		冠芽着生		除冠芽		冠芽着生		除冠芽		
	被 覆	無被覆	被 覆	無被覆	被 覆	無被覆	被 覆	無被覆	被 覆	無被覆	被 覆	無被覆	
花芽誘導時期													
8 月 上 旬	87.8	87.3	83.7	85.9	86.4	81.2	70.4	75.0	86.1	87.7	89.3	85.4	
中 旬	89.9	92.6	88.6	89.6	90.0	93.2	87.7	91.5	99.6	94.0	94.4	87.5	
下 旬	92.5	92.0	91.3	92.0	94.6	95.8	93.6	93.0	99.6	92.4	97.3	92.4	
9 月 上 旬	83.5	86.6	85.5	86.6	94.8	96.5	92.0	94.2	99.0	93.6	92.9	90.7	
有 意 性	処理方法 N, S		時 期 **		処理方法 N, S		時 期 **		処理方法 *		時 期 **		



第1図 果心黒変病の発病率

第2図 褐斑病の発病率

第3図 黒目病の発病率

第4図 花樟病の発病率